

平成30年5月27日(日) 日本を美しくする会

第255回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 高津中学校 校長 青木 桂一
参加者数 7名 教頭 嘉儀 純哉

1、事務局 岡崎 慎より所感
今日は初夏を感じさせる良い天候に恵まれました
よっていつもご参加頂いている方々も地域の行事が多くてご参加される方が少なく、7名という少人数で掃除をしました。地域の運動会、清掃活動と各地域で活発に行われておりました。でも嬉しかったのは中西中生徒の中島明洋君が今月も参加して頂いたことと、先月吉田小学校で月例会を開催しましたがその時にご参加頂いた長嶺歩先生がご参加されたことです。また、久しぶりにご参加された萩市の美原さん
このご三人の方と一緒に掃除できましたことをとても喜んでおります。少人数でも掃除は楽しいですね
2、体験感想発表
・中島 明洋さん(中西中学校3年生)
今日で12回目の参加になります。前の中西中学校の校長先生に言われてどれだけ続けられるかやってみなさいと、今日まで続いています。今日は小便器を掃除して、手洗い場も綺麗にしましたが、張り紙を取る時に指を少し擦りむきました。きれいになって良かった
・長嶺 歩さん(吉田小学校教諭)
今日で4回目の参加になります。255回という記念すべき回に参加でき、それも今までにない最少人数での掃除ということでしたが、回数を重ねるたびにバッチリと思った事が、毎回新しいやり方を教えて頂いたりして楽しいです。普段学校で生徒や先生と毎日を過ごしていますが、この会の参加すると色々な方と接触ができ話も出来楽しいし嬉しいですね

2、体験感想発表
・美原 善大さん(萩市)
今日は久しぶりに参加しました。人数も少ないということで二つ大便器を担当しました。少し時間が足りなくて久しぶりに汗が出ました。ありがとうございました。
・中部 尚樹さん(浜田市・キヌヤ)
今日は外から入って一番目の小便器を担当しました大体汚れているのが普通ですが、案外思ったよりきれいでした。逆に床が広くて汚れもひどく少々疲れました
今日のように少数精鋭でこじんまりとやるのも良いですね
・岡本 昇太さん(浜田市・キヌヤ)
今日は小便器を担当しました。前回来た時よりもきれいで汚れは普通程度で比較的楽でした。でも外から入れるトイレですから床が汚くて大変でした
・佐々木 昇さん(浜田市)
今日は2点気付いたことを報告します
一点目は障害者用のトイレを掃除しましたが、汚れは普通程度でも床が汚いことです。また手洗い場の洗剤が容器に入っていないことは問題です
二点目は掃除を始めて20年経ちますが、人数が多い時にはリーダーで自分が掃除をする必要がないですが、人数が少ないと自分からやらないといけないですが、達成感があります。今日は人数も少ない中で掃除はとても充実して達成感が有りました
* 全国で掃除をされている方々と交流がありますが、どこも同じと思います。益田は特に高齢化をして維持継続を考えさせられます。何とか300回をやりたいと思いつながら毎月続けております

4、鍵山秀三郎相談役 一日一話より抜粋
尊重される生き方
いい人生を送るためには、人から尊重されるようになることです。
尊重されるためには「あてにされる」「頼りにされる」「好かれる」そんな生き方を心掛けることです。
具体的には掃除をすることです。身の回りを掃除して、環境を整えると人から尊重されるようになります。
伊勢神宮が尊重されるのは、いつもきれいに掃き清められているからです。
努力は報われる
たとえば学校の勉強。一所懸命勉強してもしなくても、もしかしたら試験の結果が同じ点数の時も有るかも知れません。「だから、勉強しても、しなくても同じ」と考える子供がいたとするならばそれは間違いです。今日は同じであっても、努力の成果は必ず、明日から先に大きな差となって表れてきます
無駄な努力はありません。「努力は必ず報われる」そう信じてください。
5、森信三先生の教え 一語千鈞より
人生生死あり
・この地上では、何らかの意味で、犠牲を払わねば、真に価値あるものは得られぬとは、永遠の真理である。
かくして犠牲において、大事な点は、自ら犠牲の重荷を負う本人自身には何ら犠牲の意識がないどころかそこには深い喜びと感謝の年が伴うのが常である。
・「世の中はなるようにしかならぬ。だが必ず何とかはなる」もしこの「何とか」という言葉の中に「死」という言葉も入れるとしたら、これほど確かな心理はないであろう。
・もし私があの世界へ、唯一冊の本を持っていくとしたら、恐らくは「喫縁録」を選ぶでしょう。何となれば、それは二度とないこの世において、私という一個の塊が、縁あって巡り合い知り合った人々の自伝の最小のミニ版だからです
6・平澤 興先生語録より
生きよう今日も喜んで
・知っているとか、話をしただけでは人間は一つに融け合わない。絶えず本能的に道を求めているものをお互いに感じ合う、磁石が引き付けあうようなものである。
・多くの人は先ず驚く。自分のことについては、大抵知っているように思うが、これはむしろ錯覚である
我々は、初めて自分の事さえも、本当に知らぬということに気付き、この世にそれぞれ個性の異なる無数の人がおり、更に知らぬことばかりに満ち溢れていることに気が付くのである。